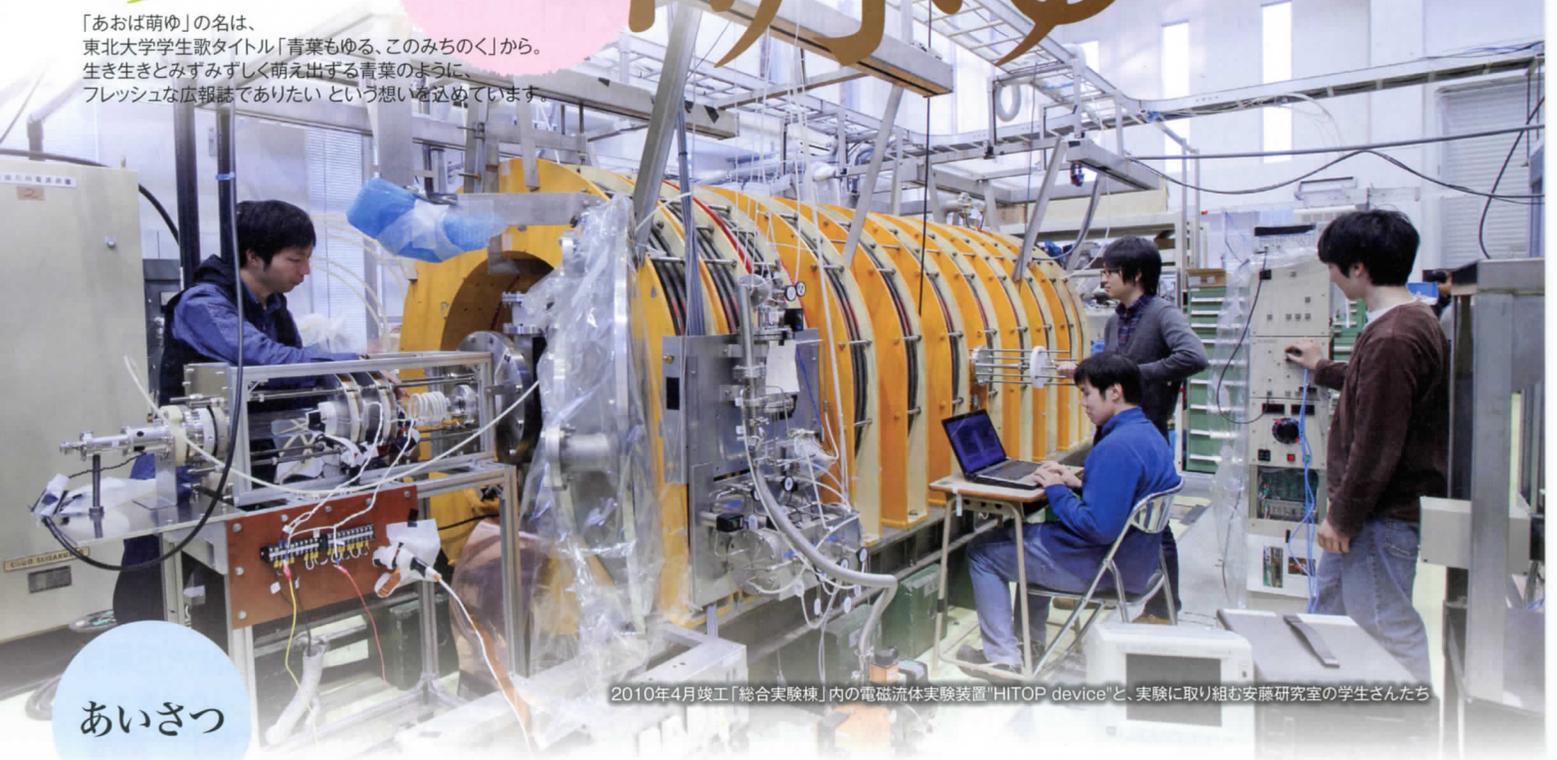


東北大学工学部だより

# あおば vol.18 2013 Spring

「あおば萌ゆ」の名は、  
東北大学学生歌タイトル「青葉もゆる、このみちのく」から。  
生き生きとみずみずしく萌え出する青葉のように、  
フレッシュな広報誌でありたいという想いを込めています。

# 萌ゆ



2010年4月竣工「総合実験棟」内の電磁流体実験装置「HITOP device」と、実験に取り組む安藤研究室の学生さんたち

## あいさつ

早いもので東日本大震災から二年の歳月を重ねました。改めて被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

『3.11』以降、“科学技術”に寄せられる期待、そして果たすべき役割はこれまで以上に高まっています。中でも、災害に強い安心・安全な社会づくりや、エネルギー・資源・環境問題の解決を担う「工学」への注目は並々ならぬものがあります。

一方、我が国は世界でも例のない「少子高齢化」への歩みを加速させています。加えて、急激に進むグローバル化の潮流のなかで、かつてのような世界市場における優位性を保持できず、他国にその座を譲り渡す分野もみられるようになりました。

「安全で安心できる暮らし」「持続可能な社会」、そして「科学技術立国の再生／ものづくり日本の復活」に向けた最適解を導くことができるのは、工学を学ぶ若者たち。小資源国・日本を支える『国の礎』となる人的資源です。

本学部・研究科では、豊かな未来を展望できる人材の育成を強力に推進していくため、教育改革プログラムを編み、その運用と実践に着手しました。目指すのは、“イノベーション・グローバル人材”の輩出です。それは、社会の仕組みを根本的に変える革新的発想力と高い課題解決能力を備えた“先駆者”であり、自身の能力と思考力を基に世界で戦える力を持つ“先導者”。私たちは、次代の社会と世界の支柱となる人材が備えるべき能力——すなわち、豊かな人間性のための広い教養と、体系的で活用可能な専門知識、コミュニケーション能力を伴った語学力——を明確にし、それを養成するための綿密かつ具体的な教育指導を掲げています。そこには異文化を体験する短期留学支援や、企業でのインターンシップも含まれますが、何よりも学生諸君一人ひとりの動機付けを支援するような、日々の積み重ねが大切であると考えています。それは研究第一主義を掲げる本学だからこそ体感できる「探究する楽

しさ」「最先端研究に接する知的刺激」であり、「試行錯誤の末の達成感」でありましょう。失敗も含めたさまざまな体験と、積み重ねた努力によって、自身に潜在する能力を見出し、夢に挑戦する気概と力量を育んでほしい——若き工学者・技術者たちの夢の実現が、それがひいては「国の礎」になっていくものと私たちは信じています。



工学研究科長・工学部長  
教授 金井 浩